



法人推進委員会

2023

アジェンダ

法人推進委員会

Corporate Promotion Committee



法人推進委員会

2023

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

2023年-2024年度 第1回 法人推進委員会

日時： 2023年7月20日(木) 19時から20時30分

方式： Zoom会議 19時から20時30分

出席者： 宮内友弥・板村哲也・大久保知宏・佐藤重良・大澤篤人・大澤和子 衣笠輝夫・車塚潤・齋藤宙也・深尾香子・鈴木伊知郎
・辻剛・古田和彦・若木 一美・山田公平・大和田浩二・小林隆・藤原一正・山本俊一 (敬称略)

欠席者

座長 佐藤

記録 議事録を順番制とする案

まとめ A4 2枚程度にまとめる 案

資料 ① 前回の議事録 ② 一社 概要書・・・常任役員会で決定 ③

挨拶 山田公平理事

1 報告事項

委員会のメンバーによる自己紹介と委員会の抱負 30秒以内

2 議事

(1) 前回 月 日 の議事録 承認の件

(2) 書記の選任

・今回の書記

・次期の書記

(3) 2023年-2024年法人推進委員会委員長提案

・資料による 基本事項提案 佐藤

・重点施策 助成金の申請のサポート体制の構築

(4) YMCAの動き 資料説明 山本

・YMCAの目指すところ

(5) 神田川船の会 事例 紹介

(6) ワーキングチームの進捗状況と今年の到達目標

3 次回の予定

4 閉会挨拶

以上

メンバー

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

(敬称略)

委員長 佐藤重良 (甲府21)

副委員長 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

委員 大澤 和子 (所沢)

委員 衣笠 輝夫 (埼玉)

委員 齋藤 宙也 (横浜)

委員 辻 剛 (横浜つづき)

委員 藤原 一正 (甲府やまなみ)

委員 若木 一美 (横浜とつか)

職責委員 山田公平 (宇都宮)

職責委員 大和田浩二 (松本)

副委員長 宮内友弥 (東京武蔵野多摩)

副委員長 大久保知宏 (宇都宮)

委員 大澤 篤人 (茨城)

委員 車塚 潤 (仙台青葉城)

委員 鈴木伊知郎 (宇都宮東)

委員 深尾 香子 (東京多摩スマイル)

委員 古田 和彦 (横浜)

委員 山本 俊一 (甲府21)

職責委員 小林 隆 (沼津)

法人化の目的

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

奉仕団体ワイズメンズクラブ……責任ある団体である証明

認知度向上……社会のワイズ理解☞サポーター増

会員の増強……ワイズの未来のために

活発なワイズ活動……補助金・助成金の確保



活動例

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

- 社会貢献度 UP……CS 活動 助成金確保
弱者支援……貧困者、苦学生支援、こども食堂、障がい者支援
- 会員増強
新入会者の不安を払拭できること
- YMCA と協働活動……ユース活動の助成金活用 APPENDIX ④
* YMCA の目標  子ども育成（スポーツ・キャンプ） APPENDIX ⑤
- 国際・交流活性……留学生支援・避難民支援

課題

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

一社の簡易化・・・理事役員の縮小（案）
規則、マニュアルの簡素化
助成金の運営主体は、「クラブ」「部」である
バックアップは「区」「委員会」
任意団体と併走・・・しばらくの間
委員会は2024年で終了予定だが・・・

法人推進委員会の目標 [2023-2024年]

第1回法人推進委員会
2023年7月20日

- 助成金申請 各部 1~2件 合計 10~15件
- ファンドレイジング 各部 1~2件
- 助成金申請のサポート体制の構築 2023年12月末
- 一社概要書発行とHPとのリンク 2023年9月末

* 法人概要書チーム⇄HPチームへの参画

東日本区HPについて
運営チーム
問合せ対応
プロモーション

- 福島と長野にYMCAを

2023-24 年度理事通信第一号速報版

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

2023 年 7 月 17 日 東日本区理事 山田公平

ワイズに変化を

今期の東日本区のワイズ運動に変化を生み出しませんか？

一メンバーとして、クラブとして、できることを一緒にしていきましょう！

ワイズにどんな変化が必要か、何に関心があるか、それぞれの想いや願いに応じて、ワイズの一員として自分にできること、やってみたいことに取り組んでください。そんな形でこの 1 年でやってみましょう。それがワイズに変化を生み出すことになるでしょう。

この 1 年で私が目標にしたいことを紹介します。第 1 の目標として、ぜひ取り組みたいことはユースアクションの拡がりをもたらすことです。

理事主題として挙げた言葉は、

未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！

これは一体何を言いたいのかと思われるでしょう。ユースは、高校生から 35 才位までの人達を指していますが、この世代は、学校、進学、部活、就職、そして仕事に入れば、競争の中で切磋琢磨を求められています。一方、いわゆる Z 世代と言われる高校生ぐらいから 25 歳ぐらいまでの人達は、進学や仕事での成功も大切ですが、何か意味のあることに関心を示す、実行するタイプの人たちが多く世代と言われています。昨年の 4 月から今年の 1 月まで、ワイズと YMCA が協働で始めた第 1 回ユースアクションは、この世代の人たち自身に何ができるかを考えてもらい、それを実施できる機会を提供するというものでした。助成金を出すことで、何か社会のためにやりたいことを考え始め、それが様々な取り組みを生み出してきたと言えます。その活動報告を聴いて感じるものが私の示している理事主題の言葉です。まさにユースアクションの目的は、この若い世代の人たちが達成感と今までとは違った心の喜び（満足感）を感じたことではないでしょうか。

ワイズや YMCA には、「未来のために今、学びと気づきを！」を提供できているかが問われます。そして若者自身が何か社会のために取り組みながら、「未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」ということを感じたか問われています。彼らの報告やどの言葉や表情を通して確かに手ごたえを感じ、今までにない他者のために役だっている自分の新しい達成感、喜びに出合った体験になったのだと感じることができました。この感覚をユースの言葉や表現から感じられるかがユースアクションの評価のポイントだと思います。

今年度（2023-24 年度）の具体的目標

ここでは今年度のワイズ東日本区でやってみたい 8 項目の具体的目標を挙げています。これを読んで、ワイズの一員として個人的にやってみたいことがありますでしょうか？ほかのクラブの人たちと一緒に、あるいはクラブの目標としてやろうということになれば、ワイズに新しい力と意味を生み出すことになります。ご検討ください。もちろん、各クラブで目標を挙げて、自ら取り組んでもらいたいと願っています。これらの 8 つの目標は、今年度の理事の願いであり、これから一つひとつの目標にどう向かっていくか、検討をし、皆さんの参画を求めています。

目標 1. ユースアクションをワイズの看板に

今年は秋（9 月—11 月）にオリエンテーションや社会問題を考える研修会をしようと考えています。募集要項などをその時に発表しようと思います。来春（2024 年 1 月—2 月）にプロジェクト募集をし、実際のアクションが始まるのは来年の学校年度が始まる 4 月か 5 月からとなるでしょう。東西日本区協働で行うことになるので、昨年同様に全国で 10 のプロジェクトを選考することになります。昨年は、10 プロジェクトに助成金を提供しました。このプロジェクトは主に 2024 年 5 月から -25 年度 2 月までの実施ということになってきますが、その準備段階を今年度に行いますのでワイズの年度にすると 2 年がかりのプロジェクトになります。YMCA のユースだけでなく、学校や他の団体のユースのグループも助成対象になります。

目標 2. 東日本区独自のユースアクションの展開を

2024 年度は、特別に数か所のユースアクションを東日本区で独自に行います。北海道部には 3 つのクラブがありますが、その中でいくつかのクラブと YMCA でユースア

クションに取り組みたいと計画しています。参加するユースの変化や喜びを少しでも多くの地域で感じてもらいたいです。2024 年 6 月 1 日は東日本区大会を北海道帯広で行います。その時の目玉としてユースアクション北海道版の報告と協議をしてもらいたいです。また、学生 YMCA、通称「学 Y」との関係も強化できればと考えています。ユースアクションを通して学 Y との関係を築きあげるきっかけになることを望んでいます。

目標 3. 福島県と長野県に YMCA を

福島県や長野県には YMCA がありません。長野クラブは、「長野に YMCA を」という願いを持ち 2010 年に設立されました。今ワイズがある長野市や松本市で YMCA 運動を興す、そんな働きを支えるワイズを強化するという当初の目的を、この年に目指せないか検討をしようということです。YMCA をといても、会館を持つことや専属のスタッフを置くということではなく、富士山部で独自に行っていることも参考にしながら、地域のニーズを知ったうえで運動を興していくのはどうでしょうか。それは富士山部の多くのワイズがしているように子どもたちの活動の場作りかも知れません。松本クラブでは、留学生を支援する場として日本語スピーチコンテストを続けてきました。この延長の活動も考えられます。あるいは障がいを持つ人々への支援の場かも知れません。この地域のクラブ、知り合いのいる方、関心のある方に呼び掛け、一緒に話し合い、地域の関心を生み出す講演会や話し合いの機会を設けていきます。2 年 3 年かけて徐々に進めるのはどうでしょうか。かつては新潟にも YMCA をという願いがあり、ワイズが結成されたこともありましたが、可能性があれば、各地に拡げることも検討したいところです。

目標 4. クラブライフを楽しく、意味あるものにしていくとは何か？

それぞれのクラブでクラブライフをさらに楽しくする、クラブのカラーを見出していき、クラブが目指すものを分かりやすくする、そしてそこに人を誘えるようにする、それがクラブライフをより良くする発想の原点かも知れません。「それをするために何ができるか」を考え実行する一年にしたいと思います。クラブの人たちが集まり、話し合い、実行していく、そんな取り組みをやってみませんか？例えば、3 か月に 1 回でも面白いテーマで講演会を実施する。そのために、小さいクラブだけではなく、近隣のクラブと合同例会にして、講演会を実施し、そこ

からこの 1 年にできることを検討していくのはいかがでしょうか。

目標 5. 地域での活動、国内での活動を充実したものに するため

今年目標の中に、ユースアクション、ワイズのエクステンション、クラブライフの充実への取り組み、ユースインターン制度 (iGo)、あるいは国内外のクラブとの交流や応援など、ワイズの活動をより良く、より意味のある形にするためには資金が必要です。資金集めをしっかりする、献金の在り方も見直す。支えたい活動やクラブで取り組みたい活動があれば、それに必要な資金を集める工夫をしていくことが大切です。応援できるところに資金面で応援するという活動です。ユースアクションはその典型的な例です。それを可能にする仕組みをクラブで考える、さらには今までしてきた献金活動をもう一度見直し、クラブライフをより意味あるものにしていきましょう。資金集めの充実がクラブ単位で、地域で、YMCA との協働事業で、さらには全国で展開する活動のために必要となります。これまでの献金制度も含め、協議を進めていきたいと考えています。

目標 6. 国際・交流活動の具体的展開の一步を

ワイズの国際活動には BF (訪問を通してのフェロシップを)、TOF (貧困などの解消プロジェクトを支える)、交流活動として IBC (海外のクラブと関係強化) などがあります。この国際的関係をより身近に感じる形になる仕組みを作る必要を感じています。例えば、ある特定の国のクラブ YMCA と組んで一緒に TOF (Time of Fast) のプロジェクトを作り、そのクラブや YMCA と BF (Building Fellowship) で人の派遣や現地のワイズメンを招いたりもできます。それが IBC (International Brother Club) となって交流や協力を継続的にすることもできます。国際活動はワイズの特徴となりうる活動ですが、世界的組織としての特典を日本のワイズの人たちが身近に感じる仕組みを作れないでしょうか？

目標 7. iGo (ユースのインターンシップ) を国内で始める工夫を

iGo というプログラムは、Internship for Global Outreach の略で世界に羽ばたき、活動したいユースのインターン制度です。これは、ユースが 1 か月程度海外の

YMCA 活動などにインターンとして送り出す制度です。そんな希望をもつユースを支えるのがワイズの役割となります。今年度は、この制度をまずは国内でできないかと考えています。例えば高校生や大学生の夏休みを利用して、北海道で酪農体験を数週間したり、YMCA の保育園や老人ホームでの実習体験を提供するなどが考えられます。国内のワイズ (DBC) や YMCA の関係の中で、その可能性を探ってみる 1 年にしたいと思います。このプログラムこそ、ワイズと YMCA ができる協働事業になるのではないのでしょうか。実習を受け入れる地域のクラブは、実習生のホームステイ、例会への招待など、実習中のユースを支えることとなります。DBC クラブ同士の交流にもつながるのではないのでしょうか。

目標 8. 将来のワイズを一緒に考え、話し合い、提案していきませんか？ 将来構想検討会 (仮称) というチームを設け、ワイズのこれからの区、部、各クラブの在り方、10 年後にはこうなってほしいというビジョン、中長期的目標や計画、そしてそのための戦略を提案していくこととなります。ワイズの強みや弱みを見極め、そこから将来ビジョンを描いていきます。10 年後のワイズ運動はこうありたいと思う人たちで、ワイズ歴など問いません。より良い東日本区を目指していきたいと思う人はぜひこのチームにご参加ください。この 7 月中に募集受付をします。まとめ役は、ワイズの経験豊かな田中博之ワイズです。来年 6 月に行われる年次代議員会、東日本区大会を当面のターゲットとして活動していく予定です。

具体的なかわり方とかかわり方に関する相談

目標 1. ユースアクション全国版 タスクチームを作り、各地のユースグループ (YMCA ユース、学校、学生 YMCA, その他のサークルなど) へのプロジェクト参加募集をします。自分の地域のユースにこの事業を紹介したり、知っているユースグループに声をかけたり、話し合いをしたりしてください。

目標 2. ユースアクション北海道、学生 YMCA 版 上のかかわり方と同様ですが、特別に北海道での 2 つか 3 つの YMCA (クラブ) で出来る事を検討したり、応援したりする人たちを求めています。さらに、いくつかの学 Y にも声をかけてください。これらの都市に YMCA 活動をとということに関心のある人を紹介してください。これらの地域の活動に関わりたい人もぜひ。

目標 4. クラブライフを良くする工夫を これは各クラブで工夫して、部で意見交換をし、新しい取り組みなどを分かち合ってください。いくつかのクラブが協力して一つの活動を生み出す工夫など、話し合ってください。

目標 5. ファンドレイジング強化 ユースアクションなど具体的な活動を支えるファンドレイジングを区レベルで、そして各クラブでもぜひ進めてください。

目標 6. 国際・交流事業の具体的展開を 主に国際・交流事業委員会で検討をし、クラブや個人で関心のある人たちがかわる仕組みを作れたらと思います。関心ある方、具体的な提案をぜひ。

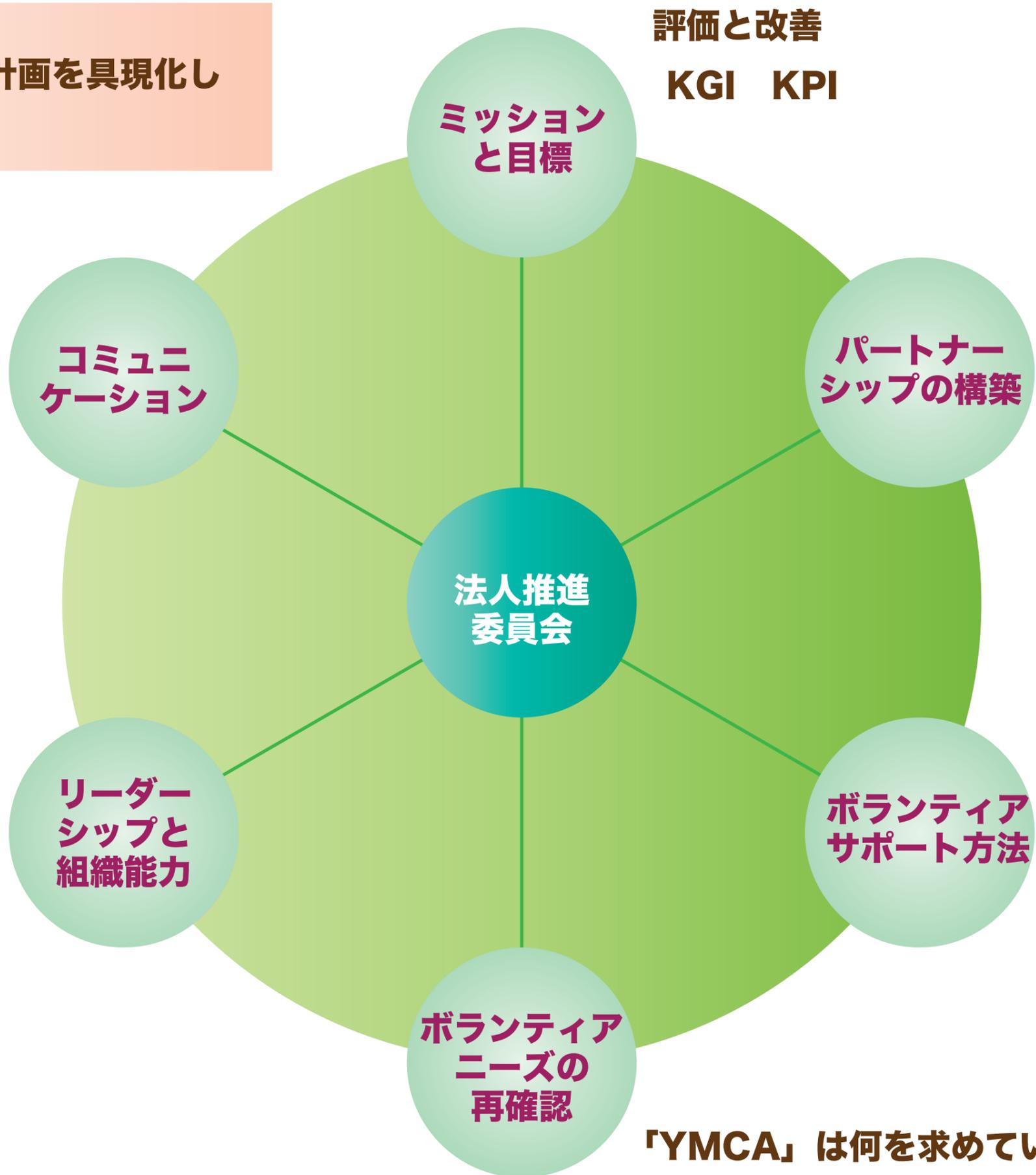
目標 7. ユースインターンシップ (iGo) の具体化を 関心のある人たちが、タスクチームを組んでいくつかの事例を生み出せればと思います。関心のある方、受け入れ可能なクラブや YMCA、歓迎です。

目標 8. 将来構想検討会 (仮称) ワイズの未来 (10 年後の姿) を考えたい方、アイデアを持っている方、こんなことができないかと思う方、ぜひ委員会 (チーム) にご参加ください。関心ある方は、まとめ役の田中博之ワイズ (東京多摩スマイルクラブ) へ 7 月末までにご連絡ください。

山田理事の二ヶ年計画を具現化し
推進する

広報と情報収集
PR と IR
集合知

継続性
再現性
収支



評価と改善
KGI KPI

船舶振興会
ロータリークラブ
行政

マンパワー
広報・宣伝
経営支援
募金
育成

「YMCA」は何を求めているか

子どもの成長に寄り添う

子育てと子育て

約300,000人



YMCAは、多様なサービスやプログラムを通して、子育て・子育ての両面から子ども一人ひとりの成長に寄り添っています。保育やアフタースクールといった安心の場づくり、ウエルネスや語学教育、国際交流といった出会いや成長の機会。YMCAの子育て・子育てのネットワークは全国に広がっています。

日常生活 約14,000人

チャイルドケア（保育園・幼稚園・こども園）

学びと習得 約7,000人

インターナショナルスクール 幼児・小学生

英語 進学指導 文化芸術

身体の形成 約16,000人

幼児・小学生ウエルネス

総合的な実践 約65,000人

幼児・小学生自然体験活動 キャンプ

課題の解決と献身 約200,000人

ウォーターセーフティ ピンクシャツ 国際交流

若者の力を信じる

ユース
エンパワーメント

約90,000人



YMCAは、幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の成長を応援しています。夢の実現に必要な知識やスキルの習得にとどまらず、さまざまな体験や出会いの中で人間力を育てていく。YMCAのユースエンパワーメントはこれからも若者の成長を力強く支援していきます。

日常生活 約10,000人

アフタースクール（学童・児童発達支援・放課後等デイサービス） オルタナティブスクール

学びと習得 約10,000人

専門学校 日本語学校 単位制高校

身体の形成 約7,000人

中高生ウエルネス（各種スポーツクラブ）

総合的な実践 約60,000人

キャンプ インターナショナルキャンプ

課題の解決と献身

ボランティアリーダー活動 社会課題解決型の総合的ユースリーダー 大学サークル

健やかな生活を支える

生活クオリティの
向上

約25,000人



YMCAは、高齢化社会に対応する事業や活動にも注力しています。健康寿命の延伸や知的好奇心の追求、社会とつながる機会を提供し、いきいきとした健やかな生活を支えます。YMCAは、その人らしく生きることのできるQOL（Quality of Life）の向上に貢献します。

日常生活 約3,500人

高齢者ホーム デイサービス 訪問介護・地域包括支援センター

学びと習得 約3,000人

生涯教育 文化・芸術 語学学習 歌声ダンス

身体の形成 約15,000人

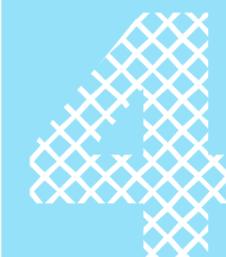
成人ウエルネス 介護予防・認知症予防体操

課題の解決と献身

地域コミュニティ活動

社会貢献の地域基盤となる

社会に貢献



YMCAは、広く社会問題を解決するための活動に取り組んでいます。社会の課題を自分ごととして捉え解決のためのアクションに向かう。日本、そして世界に広がるネットワークと多様な活動領域を活かし、YMCAが地域の活動の基盤となって、社会貢献の力を広げていきます。

日常生活

ピンクシャツデー ウォーターセーフティキャンペーン

学びと習得

Amazon Future Engineer

身体の形成

Nike-YMCA Play Academy for Girl's

Initiation インターナショナルチャリ

ティーラン

総合的な実践

公益協働事業（各自治体から指定管理・PFI事業の委託を受ける）

課題の解決と献身

地球温暖化世界ユース会議 高校生による社会課題解決アイデアソン

企業との協働プロジェクト

災害被災地支援 各種国際協力

文化・教育支援

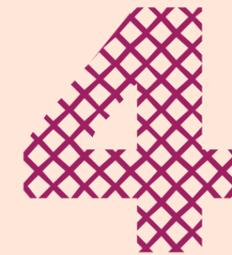
動物愛護

環境保護

YMCA



ワイズメンズクラブ



障害者



子ども支援

健康支援

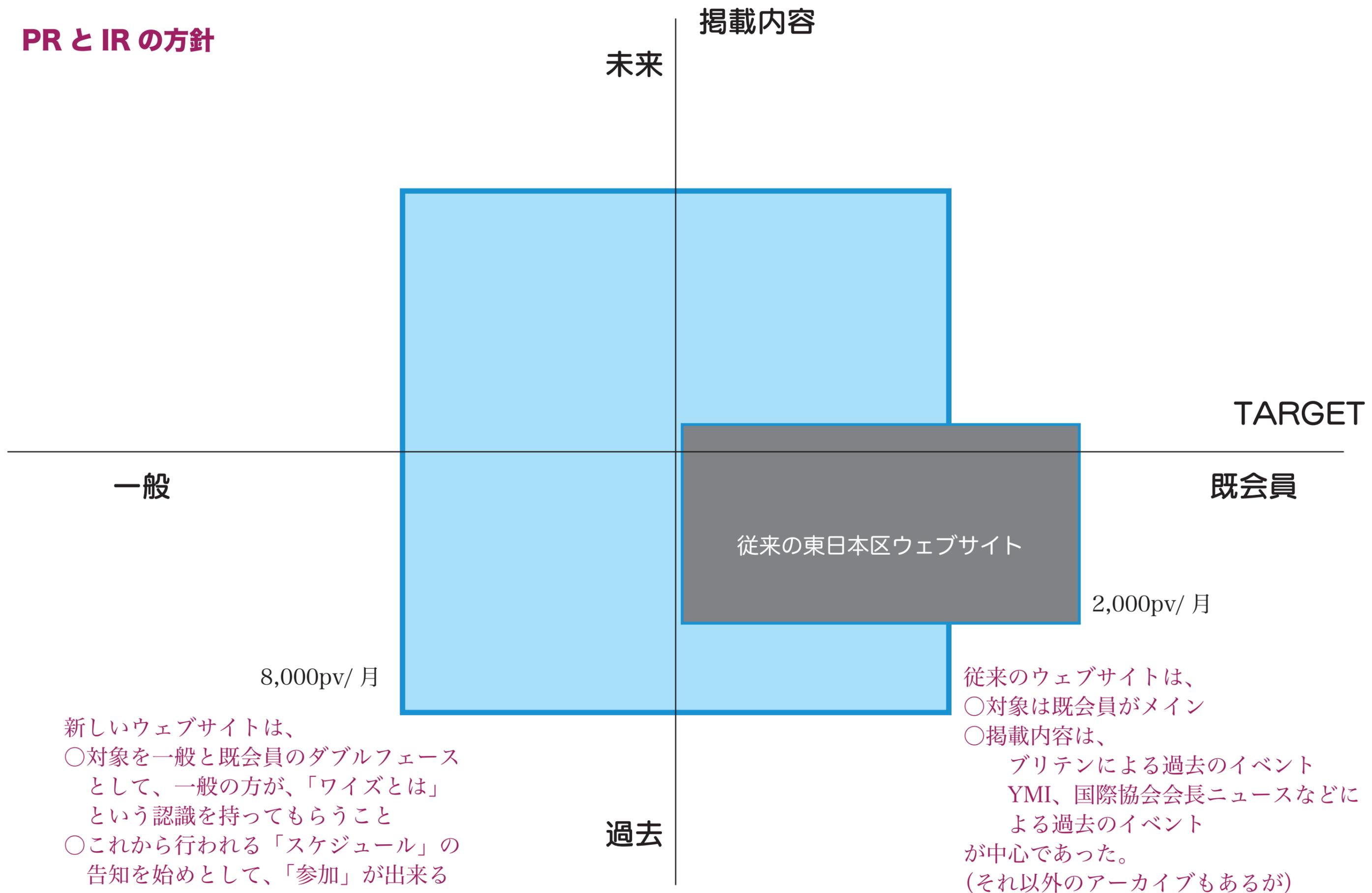
災害支援

社会福祉

病院訪問

貧困層

PR と IR の方針



掲載内容
未来

TARGET

一般

既会員

従来の東日本区ウェブサイト

2,000pv/月

8,000pv/月

過去

新しいウェブサイトは、
 ○対象を一般と既会員のダブルフェースとして、一般の方が、「ワイズとは」という認識を持ってもらうこと
 ○これから行われる「スケジュール」の告知を始めとして、「参加」が出来る

従来のウェブサイトは、
 ○対象は既会員がメイン
 ○掲載内容は、
 ブリテンによる過去のイベント
 YMI、国際協会会長ニュースなどによる過去のイベント
 が中心であった。
 (それ以外のアーカイブもあるが)

ワイズとして

- 会員数
- 献金額
- クラブ数
- 献金額（国際）

達成期限

- 全体としての目標
- スコアリング評価
評価ポイントに応じて、分配金
- 個人としての目標

YMCA に対して

○経済価値向上

*ワイズマンパワーを例えば人件費として評価する。

例えば 月に 12 時間 YMCA への貢献をした場合

- ①時給 1,000 円 とする
- ②月間貢献額は 1,000 円 × 12 時間 = 12,000 円
- ③年間貢献額 12,000 円 × 12 ヶ月 = 144,000 円
- ④ワイズ合計 14.4 万円 × 800 人 ≒ 1 億円

*ワイズによる「YMCA」事業への貢献

- ①プログラム参加者を紹介 売上貢献
- ②プログラム実施支援 農場、キャンプ、その他
- ③バックオフィス支援 会計、企画、PR
- ④新たな事業の提供 日本語学校、就労支援
- ⑤ファンドレイジング 税額控除対象

○対象 YMCA への目標

*エリア主管の YMCA に対する目標

- 例) 山梨 YMCA については、対象ワイズメンズクラブ 甲府、甲府 21、甲府やまなみ、富士五湖の 4 つのクラブでの合算目標